

第1学年 マナー教育 学習指導案

1. 題材名 「コミュニケーションマナー ～笑顔と挨拶～」

2. 題材設定の理由

○題材観

生徒のマナーについては校外で様々指摘されている。そのため、学校全体での取り組みが必要という声が多く聞かれ、必要に迫られたところである。そこで、生徒自身に、他人との共生のための行動、魅力ある大人としての振る舞いなどについて考えさせたい。基本的な生活習慣、人権意識、規範意識の確立は、責任ある行動ができる社会人として当然のものであるが、家庭や地域の教育力が十分とは言えない現代においては、学校教育の中でしつけを行う必要がある。高校生という成長段階を踏まえ、進路実現のためのスキルを身に付けさせ、良き社会人として旅立てるようになるためのマナー教育という観点で指導を行う。

○指導観

人との共生ができること、人を思いやる気持ちがマナーの基本である。日本的考え方は「人が嫌がる事をしない」アメリカの考え方は「人が喜ぶことを行う」という考え方の比較もあるが、「マナー」とは両面を持ったものとする。人としてどう生きるかを問われる哲学とも考えられる。授業者は、成長過程の生徒たちがやがて社会人として巣立つ時、どんな大人になって欲しいかをイメージし、それを生徒に伝わるように進める必要がある。生徒一人一人がマナーの意義を理解し、居心地のよい社会を形成できる資質や能力を育成できるように指導する。また、HR活動や講演の時間の時だけ考えさせるのではなく、キャリア教育の一環として、全職員が一丸となって、日常の教育活動の中で継続して指導することが不可欠である。

3. 目標

- 1年・・・マナーの意義・コミュニケーションマナー・挨拶の仕方を身に付ける。
人との共生のための「マナー」について考える。美しい挨拶ができることを目指す。
- 2年・・・言葉使いのマナー・礼儀作法（テーブルマナー等）を身に付ける。
TPOに合わせた衣服の選び方、テーブルマナー(修学旅行等にて)講習を行う。
- 3年・・・マナー教育のまとめ・適切な面接の受け方について理解する。実践力を身に付ける。

4. 指導計画

- (1) 1年・・・マナーの意義・挨拶とコミュニケーションマナー・・・1時間 本時
- (2) 2年・・・言葉使いのマナー・テーブルマナー・・・2時間
- (3) 3年・・・マナー教育のまとめ・面接の受け方(進路と連携)・・・2時間

5. 本時の指導観

良き社会人となるために、進路実現のために、という明確な目標を提示することで意識付けができ、普段の行動へつながると考える。実践的、日常的な場面を用いたロープレをとおして、生徒が主体的に考えるように進める。

6. 本時の目標

- マナーについて関心を持ち、向上を目指して自主的・積極的・意欲的に取り組む態度を身に付ける。
- マナーに関する知識や、状況に応じたマナーを身に付けることでコミュニケーション能力を高め、他との共生の必要性や意義（役割）を理解する

7. 指導上の留意点

- 自分自身のマナーチェックをとおしてマナーとは何かを考えさせる。
- 実例をとおして「マナー」を考えさせる。
- 正しい姿勢・挨拶の仕方を学び、日々挨拶が実践できるようにする。

8. 教材 生徒： マナー記入表 資料プリント 教師： 資料プリント

9. 過程

	学習活動・内容	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> マナーに関する事前アンケート（日頃の自分のマナーについて振り返る。） 	<ul style="list-style-type: none"> マナー学習を行うにあたっての予告を行う。 			一斉	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・出席・着装をきちんとする。 社会に於けるマナーの必要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> マナー学習を行うにあたっての心構えと態勢を整えさせる。 正しい着席姿勢の指導を、生徒にわかりやすく説明する。 他人との共生のためにマナーが不可欠であることを理解させる。 		5分	一斉	(2)
展開1	<ul style="list-style-type: none"> 題名を伏せた詩を読んで、答えを考える。 笑顔の価値について理解する。 笑顔の伝言ゲームをしながら、笑顔を作る練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でもできること、などのヒントを出しながら、正解に導く。 笑顔を保つことの難しさ、意義について説明する。 全員立たせ、2列が1組とし、前→後ろ→前の順で行わせる。 	資料プリント	10分	一斉	
展開2	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートの結果より、自分のマナーに対する意識を確認する。 マナーのある快適な社会は自分たちで作るものだという理解する。 コミュニケーションにおける挨拶の意義について考える。 挨拶のある社会の良さについて理解する。 全員で正しい普通礼の仕方を練習する。 学校生活における挨拶や言葉遣いについて班ごとに考え、ロールプレイを行う。 実践することの大切さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が気付かないところでマナー違反をしていることを気付かせる。 マナーの社会的意義を理解させ、それが自分にとっても居心地のよい空間を作ることになるという理解させる。 共生にはコミュニケーション能力が必要なことを認識させ、挨拶が人への「思いやり」の基本になることを気付かせる。 黒板にフローチャートを貼り、空白部分を考えさせる。 次のロールプレイがスムーズに行えるよう、全員がきちんとできるまで発声と礼の練習をさせる。 生徒に考えさせるような、具体的ないくつかの場面を設定して提示する。 注意すべきポイントが何かを説明し、今後の実践へつなげるよう指導する。 マナーは、日頃の習慣によって作られるということをわかりやすく伝える。 	資料プリント・ワークシート	30分	一斉	(1) (1) (2)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 社会におけるコミュニケーション能力の必要性について理解する。 本時の学習の感想を書く。 本時で学んだことを踏まえ、最後の挨拶を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を高める第一歩は挨拶であることを認識させる。 本時で学んだことを日常的に活かすことを確認する。 意識して行うように指示する。 		5分	一斉	(2)
評価	<p>(1) マナーについて関心を持ち、向上を目指して自主的・積極的・意欲的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) マナーに関する知識や、状況に応じたマナーを身に付けることでコミュニケーション能力を高め、他との共生の必要性や意義（役割）を理解している。【知識・理解】</p>					